

宮前区版



最新号:2011年9月16日号

親子で防災を考える

稗原小で1泊2日の防災キャンプ

2008年7月25日号



市立稗原小学校で7月20日、1泊2日の防災キャンプが行われた。大地震が発生したという想定で、ガス・電気のない生活を親子で体験しようという初の試みに48世帯114名が参加した。

主催したのは保護者有志らで昨年結成された『父の会POWERS(山田尉彦会長)』。同小学校は震災時の避難場所に指定されているが食料は隣の菅生小学校・中学校にしかなく給水車は稗原交差点までしか来ない。「多くの人には緊急時学校に来れば何とかかなと思っている。でも実はそうではない。僕達も今回初めて知りました」と弦巻達也実行委員長。

キャンプ開催にあたり『父の会POWERS』では事前に160世帯にアンケートを実施した。すると約半数の世帯が非常時の持ち出し袋を用意していることがわかった。しかし救援物資が小学校に届くまでの間に避難所で役立つ食料や寝袋を用意している数は内10世帯程度。そこでキャンプでは「必要なものを親子で話し合っ

て持って来る」とし“何が必要か”を考えることを大切にしたい。夕飯はガス・電気を使わず、空き缶と牛乳パックでご飯を炊くサバイバルメシに挑戦。夜はキャンプファイヤーや暗闇学校体験など楽しいイベントも行われた。また体育館での寝床はダンボールを敷布団代わりに使用した。児童の1人は「ダンボールって硬い。それに家と違ってクーラーがないから暑いよ」と話していた。「実際に学校に泊まってみて、知ったことも多いはず。楽しく防災について考えられたのでは」と山田会長。父の会では今後もキャンプを続けていく予定だ。